

プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

http://www.jhnfa.org

発信日 平成 27 年 4 月 1 日 (水) 渉外広報室

トクホ市場 6135 億円 前回を下回り、僅かに減少

= 特定保健用食品の市場および表示許可の状況 =

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 23 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2015 年 2 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1144 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開して参りました。

その一環として 1997 年度から特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2014 年 12 月から 10 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 矢吹、中澤（TEL 03-3268-3132）または渉外広報室 福本（TEL 03-3268-3134）にお願いします。

I. 市場規模調査

1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で2014年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

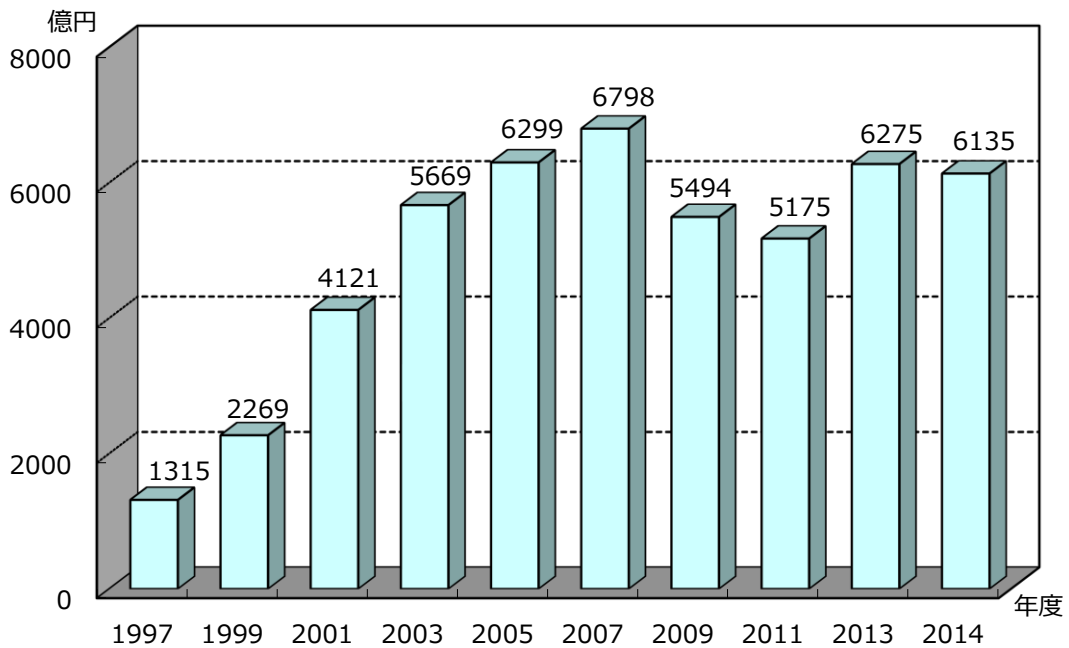
アンケートは2014年12月末現在許可取得の品目数1140を持つ全企業194社を対象として行った。そのうち188社からアンケートを回収し（回収率97%）、1111品目、179社について、回答が得られた。

売上げ見込み額の詳しい情報が得られなかった品目については、それぞれ業界内の生産、販売統計その他から当協会にて推定した。

2. 集計結果

(1) 市場規模

図1. 特定保健用食品の市場規模の推移



特定保健用食品の市場規模は、1997年度の調査開始以来、2007年度まで調査毎に上昇し続けてきたが、2009年度に初めて減少した。その後、2011年度も引き続き減少したが、2013年度は、2011年度に比べ121.3%と大幅に上昇し、ピーク時の2007年度には届かなかったものの、2009年度を上回った。

2014年度の市場規模は6135億円（メーカー希望小売価格ベース）と推定され、2013年度の市場規模6275億円に比べ97.8%とやや減少した（図1）。

（2）保健の用途別市場概況

保健の用途別市場規模の推移は以下のとおりであった（表1）。

整腸：「整腸」全体としては、2013年度に大幅に増加したが、2014年度は乳酸菌関連品目が減少したことから、2013年度に比べ83.1%となった。

「整腸」の中心となる乳酸菌関連品目は2007年度からの減少傾向から一転し、2013年度は大幅に増加しピーク時の2005年度を上回ったが、2014年度は2013年度に比べ80.7%となった。

オリゴ糖関連品目は乳酸菌関連品目と同様に減少し続けていたが、2013年度は2011年度の2倍以上と大幅に増加し、2014年度はさらに伸長し122.9%となった。

食物繊維関連品目も2011年度から増加傾向にあり、2014年度はさらに伸長し119.3%となった。

コレステロール：調査開始以来、着実に増加を続けていたが、2013年度に初めて減少し、2014年度もやや減少した。

血圧：2011年度はピーク時の2007年度に近い水準まで回復し、2013年度はほぼ横ばいであったが、2014年度はやや減少した。

骨・ミネラル：2009年度をピークに減少しており、2014年度も2013年度よりやや減少した。

歯：2005年度をピークに減少し続けていたが、2014年度はやや増加した。

血糖値：2003年度をピークに減少傾向を続けており、2014年度も引き続き減少した。

中性脂肪・体脂肪：2007年度をピークに減少したが、2011年度から再び増加し、2014年度も2013年度に比べ137.5%とさらに比率を上げて伸長し2007年度を上回った。

保健の用途別構成比率は2013年度と同様に「整腸」が51.4%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が31.5%と続いた（図2）。全体として、「中性脂肪・体脂肪」の構成比率が大幅に増加したこと

もあり、圧倒的な構成比率であった「整腸」はやや減少した。

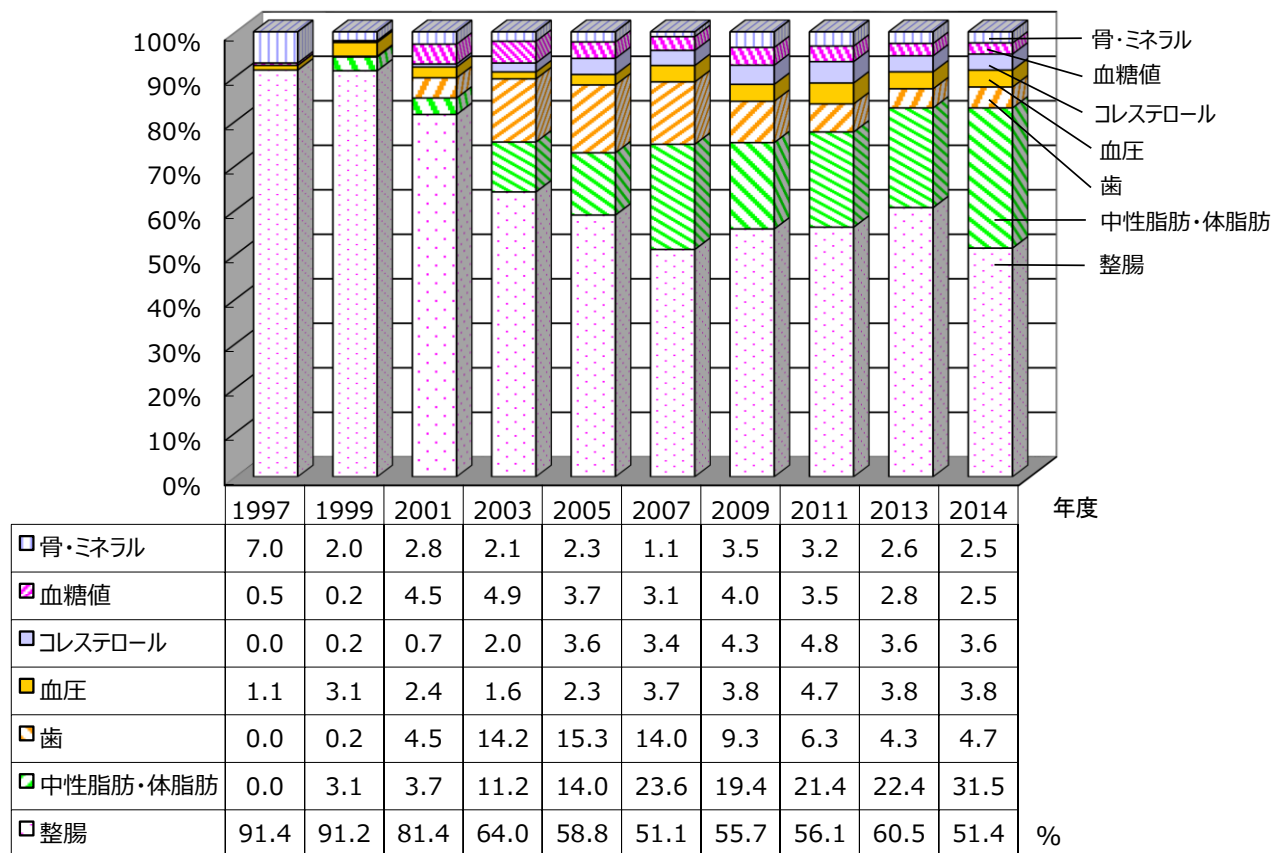
表 1. 保健の用途別市場規模の推移

年度

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0
	乳酸菌	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2
コレステロール		0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4
血圧		13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2
骨・ミネラル		92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6
歯		0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0
血糖値		6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9
中性脂肪・体脂肪		0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1
合計		1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4

保健の用途		2011		2013		2014	
		億円	09比(%)	億円	11比(%)	億円	13比(%)
整腸	オリゴ糖	29.6	87.1	68.5	231.5	84.1	122.9
	乳酸菌	2764.2	94.5	3562.1	128.9	2,874.7	80.7
	食物繊維	107.0	102.3	165.4	154.5	197.3	119.3
	小計	2900.8	94.7	3796.0	130.9	3,156.1	83.1
コレステロール		248.8	106.1	224.3	90.1	218.1	97.2
血圧		244.9	117.6	241.0	98.4	232.4	96.4
骨・ミネラル		166.7	86.6	160.3	96.2	154.2	96.2
歯		325.9	63.7	272.4	83.6	288.6	105.9
血糖値		180.5	83.6	176.6	97.9	154.0	87.2
中性脂肪・体脂肪		1107.3	103.8	1404.6	126.8	1,931.7	137.5
合計		5174.9	94.2	6275.2	121.3	6,135.1	97.8

図 2. 保健の用途別市場構成の推移



II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

1. 販売経路別市場構成

販売経路別市場構成は、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 6 割を占めているが、2014 年度も、「スーパー」、「コンビニ」がともに増加した（表 2）。

「戸配」は、調査開始当初から 2009 年度を除き約 3 割を占めて推移していたが、2013 年度は減少し、2014 年度はさらに減少した。

また、「ドラッグ・薬局」は、2013 年度は大幅に増加し、構成比率もほぼ倍増したが、2014 年度は一転して減少した。

一方、「通信販売」は、構成比率は小さいものの 2007 年度以降増加を続けており、2013 年度から 2014 年度はさらに伸長した。

表 2. 販売経路別市場構成の推移

年度

販売経路*	1999	2001	2003	2005	2007	2009
	%	%	%	%	%	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	43.8
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	16.2
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	26.5
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	5.4
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	2.4
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	5.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

販売経路*	2011		2013		2014		
	億円	%	億円	%	億円	%	13比(%)
スーパー	2,035	39.3	2,521	40.2	2,558	41.7	101.5
コンビニ	696	13.5	889	14.2	984	16.0	110.8
戸配	1,590	30.7	1,502	23.9	1,246	20.3	82.9
ドラッグ・薬局	307	5.9	662	10.5	448	7.3	67.8
通信販売	162	3.1	179	2.9	241	3.9	134.7
その他	385	7.5	523	8.3	658	10.7	125.9
計	5,175	100.0	6,275	100.0	6,135	100.0	97.8

* 2009 年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成を4種類に区分して調査を行った(表3)。

「清涼飲料水」は2013年度に比べ2014年度は128.8%となり、構成比率も37.7%と伸長した。

「乳製品」は80.5%と減少し、構成比率は2009年度以降5割以上を占め続けていたが、2014年度は47.7%と減少した。

「加工食品・調味料」は95.8%とやや減少し、「菓子・その他」は116.3%と増加した。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

食品の種類別	年度					
	2007		2009		2011	
	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1,665	24.5	1,315	23.9	1,247	24.1
乳製品	3,285	48.3	3,012	54.8	2,840	54.9
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7
合計	6,798	100.0	5,494	100.0	5,175	100.0

食品の種類別	2013		2014		
	億円	%	億円	%	13比(%)
	清涼飲料水	1,797	28.6	2,315	37.7
乳製品	3,635	57.9	2,927	47.7	80.5
加工食品・調味料	428	6.8	410	6.7	95.8
菓子・その他	416	6.7	484	7.9	116.3
合計	6,275	100.0	6,135	100.0	97.8

【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など

Ⅲ. 表示許可・承認の状況

1. 表示許可・承認品目の推移

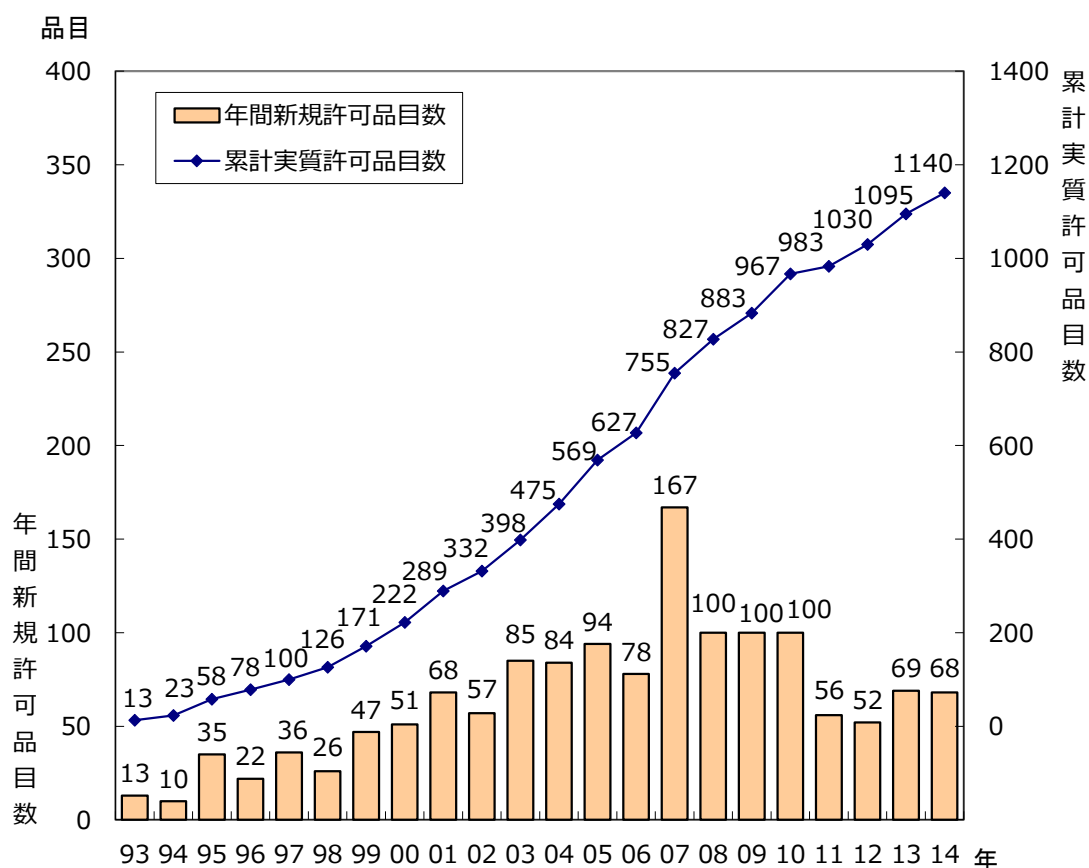
2014年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1140であった(図3)。

2014年1月から2014年12月の1年間に表示許可を受けた特定保健用食品は68品目であった。

また保健の用途別の内訳では、許可品目数の最も多い「整腸」が17品目増と最も多く、続いて血糖値が15品目であり、前回33品目と最も増加数の多かった「中性脂肪・体脂肪」は11品目増であった(表4)。

申請区分の内訳でみると、最も許可品目数の多い「特定保健用食品」は5品目減となり、前回許可品目数を下回った(表5)。続いて許可品目数の多い「再許可等」は22品目増となり、前回大幅に増加した「規格基準型」は30品目増となり更に大幅に増加した。

図3. 表示許可・承認品目の推移(2014年12月末現在)



* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数

表4. 保健の用途別許可品目の推移

年

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005	2007
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76	78
	乳酸菌	8	36	55	61	69	75
	食物繊維	24	32	50	70	104	144
	小計	72	121	167	193	249	297
コレステロール		12	14	37	52	86	114
血圧		4	9	24	38	64	88
骨・ミネラル		8	10	18	23	33	44
歯		3	5	13	26	34	58
血糖値		1	3	19	49	72	100
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31	54
合計		100	171	289	398	569	755

保健の用途		2009	2011	2013	2014	構成(%)	13比(数)
整腸	オリゴ糖	77	82	87	88	8	+1
	乳酸菌	77	81	82	83	7	+1
	食物繊維	169	192	208	223	20	+15
	小計	323	355	377	394	35	+17
コレステロール		136	139	146	150	13	+4
血圧		110	119	126	126	11	±0
骨・ミネラル		51	57	63	59	5	△4
歯		68	75	86	88	8	+2
血糖値		131	148	174	189	17	+15
中性脂肪・体脂肪		64	90	123	134	12	+11
合計		883	983	1095	1140	100	+45

品目

表5. 申請区分別許可品目の推移

年

	2007	2009	2011	2013	2014	構成(%)	13比(数)
特定保健用食品	524	517	533	558	553	49	△5
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1	1	0	±0
特定保健用食品（規格基準型）	16	28	47	80	110	10	+30
特定保健用食品（疾病リスク低減表示）	5	10	14	16	14	1	△2
特定保健用食品（再許可等）*	209	327	388	440	462	41	+22
合 計	755	883	983	1095	1140	100	+45

* 疾病リスク低減表示10含む

品目

IV. むすび

総務省の家計調査では、2014年の総世帯の消費支出において、1世帯当たり1ヶ月平均の食料消費支出は60,272円となり、前年に比べ名目1.5%の増加、実質2.2%の減少となった。昨年4月の消費税率引上げに伴う月別消費支出（対前年同月）の動きとしては、昨年3月は駆け込み需要で実質7.2%増と大幅増となったが、4月以降12月まで継続して実質増減率はマイナスで推移しており、慎重な消費行動が続いている。

調査開始以来、2007年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品の市場規模は、2013年度は大幅な回復傾向を示したが、消費税率アップの影響もあり2014年度は6135億円とやや減少した。

トクホ制度発足以来、トクホ市場を牽引してきた「整腸」分野は、2013年度は過去最高となったが、2014年度は乳酸菌関連品目の減少により一転して16.9%の減少となった。またメタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「コレステロール」、「血圧」、「血糖値」は2013年度に続き減少傾向であったが、「中性脂肪・体脂肪」は新製品やヒット商品もあり37.5%増となり顕著な伸びを示した。また2005年度をピークに減少を続けていた「歯」分野は、2014年度にはやや回復した。販売経路別では、2013年度に比べ2014年度は「スーパー」、「コンビニ」は増加したが、「戸配」、「ドラッグ・薬局」は大幅に減少した。「戸配」は継続的な定期購入が多いが、消費税率アップへの対応・見直しの影響も窺われた。また、これまで着実に増加傾向を示していた「ドラッグ・薬局」の大幅な減少については今後の推移が注目される。

特定保健用食品制度は、昨年10月には「特定保健用食品の審査基準等取扱い及び指導要領等」の通知改正がなされ、審査基準等の明確化が図られた。また規制改革会議においては、引き続き審査の合理化・迅速化に向けた議論もなされており、今後商品開発の新たなチャレンジがなされ、特定保健用食品市場の回復につながることを期待したい。健康食品全般においては、これまで検討が進められてきた機能性表示食品制度が、今年4月よりスタートすることになり、今後特定保健用食品市場へどのような影響がでるのか注目される。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対する特定保健用食品の正しい使用方法等の情報提供を推進し、更なる普及に努めていきたい。

以上